

令和元年6月14日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04277

研究課題名(和文) 小中一貫教育における発達特性および汎用的能力をふまえたキャリア教育プログラム開発

研究課題名(英文) Developing a career education program based on the developmental characteristics and general competences of primary-secondary integrated educational system

研究代表者

樋口 直宏 (Higuchi, Naohiro)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：90287920

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小中一貫教育を通して児童生徒のキャリア・進路意識がどのように形成されるかを明らかにするとともに、発達特性および汎用的能力をふまえたキャリア教育の開発を目的とした。その結果、(1)「考える時間」および「6つの帽子」を活用した授業の開発によって、思考技能が育成されること、(2)進学・進級への不安は最上級生において高く、進路動向とキャリア意識について学校種および学年間で違いが見られること、(3)人口減少地域における小規模小・中学校の課題への対応や、5-7年生ブロックによる取り組みが児童生徒の意識を高めること等の成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、小中一貫教育を受けた児童生徒に着目して、9年間の学びや意識の形成を継続的に検討した。それとともに、小学校と中学校で別々に行われていたキャリア教育を一貫して計画することで、重複や飛躍のない実践を行う可能性を見出した。2016(平成28)年より義務教育学校が法制化されており、本研究におけるこれらの成果は、全国の自治体において構想・実践されている小中一貫教育の新しい姿や在り方を考える上で、重要な役割を果たすことが期待される。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to clarify how the students' career awareness is formed through the primary-secondary integrated educational system, and to propose a career education program based on its developmental characteristics and general competencies. The findings of this study are as follows: 1) Students' thinking skills were fostered by developing lesson plans using "thinking tools" and the "six hats", 2) Anxiety about going into the next grade was higher among more senior students, and between different school grades and different types of school there were differences in both the trends in the advancing into the next grade, and in the students' career awareness, 3) Students' awareness was promoted through actions dealing with the problem of small-sized primary and secondary schools in population decreasing districts, and group activities performed by 5th and 7th graders.

研究分野：教育方法学

キーワード：小中一貫教育 キャリア教育 義務教育 学校制度 カリキュラム開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

学校教育法が改正され、2016(平成28)年より義務教育学校が法制化された。施設一体型小中一貫校をはじめ、一つの教員組織および建物において9年間を見通した教育課程による教育を行うことは、初等中等教育の新しい姿やあり方を考える上で、重要な役割を果たすであろう。その中で、小中一貫教育における児童生徒のキャリア・進路意識の形成という問題があげられる。これは、小学6年生修了時と中学3年生卒業時のそれぞれについて課題がある。前者は、私立中学校への進学や複数の小学校からの入学であり、施設一体型一貫校でも生徒の半数近くが入れ替わる場合も見られ、円滑な連携・接続を妨げる要因となっている。また後者は、義務教育課程修了時の進路についてであり、9年間の教育を通じてキャリア意識の形成ができているか、あるいは保護者や地域の高校大学への進学に対する期待と学校側の取り組みや生徒の意識とのずれといった課題がある。

2. 研究の目的

本研究は、小中一貫教育を通して児童生徒のキャリア・進路意識がどのように形成されるかを明らかにするとともに、発達特性および汎用的能力をふまえたキャリア教育の開発を目的とする。具体的な課題は、以下の3点である。

(1) 汎用的能力の育成および9年間の連続性に重点を置いたキャリア教育

キャリア形成に必要な基礎的・汎用的能力と、今日強調されている育成すべき資質・能力との関係を明らかにするとともに、キャリア教育がカリキュラム全体にどのように位置づけられているかを分析する。また、基礎的・汎用的能力の育成に主眼を置いた実践事例を開発しながら、9年間の連続性をふまえたキャリア教育のあり方について検討する。

(2) 小中一貫教育における児童生徒のキャリア・進路意識

児童生徒が、小中一貫教育における学習や生活、異学年との交流をどのように受け止めているかについて明らかにする。またキャリア形成という観点から、将来の進路や夢をどのように抱いているか、および小6、中3時における私立学校や他校も含む進路選択意識について、理由とともに明らかにする。

(3) 小中一貫教育カリキュラムにおけるキャリア教育実践

教育活動や授業の観察にもとづく事例分析を行いながら、小中一貫教育カリキュラムが、児童生徒のキャリアや資質・能力の形成にどのような影響を及ぼしたかを検証する。これらをふまえて、6-3年制にとどまらない、小中一貫教育のあり方についても考察する。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究は以下の3点から研究を進める。

(1) 小中一貫教育における実践事例の整理

申請者が助言者等として関わっている自治体を中心に、小中一貫教育の実践について継続的に観察および記録を行う。具体的には、総合学習の一部にキャリア教育を取り入れている事例を取り上げ、汎用的能力の育成および9年間の連続性という観点から授業分析を進める。

(2) 児童生徒の進路動向およびキャリア意識に関する調査

小中一貫教育を受けた6年生がどの学校に進学したかについて、進路実績をもとに全体的傾向を明らかにするとともに、中学校3年生についても、卒業後の進路動向を分析する。さらに、小中一貫教育が児童生徒の意識にどのような影響を及ぼすかについて、「教科担任制」「異学年交流」「進級・進路」「社会力」を中心に調査を行い、結果を比較分析する。

(3) 小中一貫教育におけるキャリア教育プログラムの開発

各地の実践事例を参考にしながら、汎用的能力の育成をふまえたキャリア教育プログラムを開発する。また、小中一貫教育における地域および学校規模の問題として、地方において学校統廃合と小中一貫教育とが切り離されないまま議論されるということが指摘されている。これらの相違についても、多様な自治体の実践およびこれまでの研究成果を活用しながら、小中一貫教育開始以来の取り組みに関する成果や変容を明らかにする。

4. 研究成果

第一の課題である、汎用的能力の育成および9年間の連続性に重点を置いた授業については、つくば市「つくばスタイル科」における「考える時間」および「6つの帽子」を活用した授業を開発した。「考える時間」においては、8種類の思考スキルに対応した思考ツール、および言語化の手がかりとなる論理語彙を用いて、児童生徒が図示化ならびに視覚化して学ぶとともに、自分の考えをまとめ説明し、話し合いのしかたも整理するといった汎用的能力が育成された。また「6つの帽子」においては、デボノの水平思考および並行思考の考え方に即して、教科ごとに授業が開発された。具体的には、事実や数値といったデータを表す白い帽子、思ったままの感情的な視点を表す赤い帽子、弱点やマイナス面の視点を表す黒い帽子、肯定的な側面やプラス面の視点を表す黄色い帽子、創造性と新しい考え方への視点を示す緑の帽子、考え方のプロセスを構成あるいは調整する青い帽子のそれぞれを用いて、他教科の学習にも共通する汎用的能力の育成が目指された。

第二の課題である、小中一貫教育における児童生徒のキャリア・進路意識については、小中交流の実態と意味、進路・キャリア意識、および小中一貫教育に対する評価に関する実態調査を行うとともに、子どもたちが憧れる職業に関する国際比較調査結果の考察を行った。調査の結果、主として以下の特徴が見られた。

1) 連携型よりも一体型の方が小中交流は盛んであり、小中交流の楽しさ、学校生活全般への満足、自己肯定感、他者との多様な関係、社会貢献といった点で肯定的である。

2) 進級時に伴う不安と意識について、教師や学業面に対する不安が大きく、対人面がそれに続く。また、進学・進級への不安は連携型の方が一体型よりも強いとともに、最高学年や最上級生において高い意識と重圧とを感じる一方、7年生はいわゆる「中だるみ」がうかがえる。

3) 進路動向とキャリア意識について、中学受験は5年生までに決めており、「国立・都県立・私立中学校」の希望は一体型の方が多い。8・9年生についても、「国立・私立高校」の希望は一体型の方が多い。理由については、5・6年生の「きょうだいや友だちと同じ学校に通いたい」「家から近い」から、8・9年生の「やりたい勉強や部活動ができそう」と「施設が充実している」へと変化している。進路・キャリア意識については、自分の意志で決めようとする意識が8年生になるとまず高まり、具体的な計画や努力については9年生になってから高まる。

4) 連携型よりも一体型の方が、小学生と中学生とが一緒に生活・活動することや、小・中学校の様々な先生がいて理解してもらえるという点で小中一貫教育を高く評価している。これに対して、連携型では中学生にそれらを忌避する傾向がある。

また子どもたちが憧れる職業については、幼い子どもたちは、夢のある輝かしい将来を思い描く一方、高校生は国や文化によって、希望する仕事が変わっている。なお日本の高校生は、販売員や一般事務といった「現実性」を重視した仕事や、公務員や教師といった「安定性」を重視した仕事を希望していた。

第三の課題である、小中一貫教育カリキュラムにおけるキャリア教育実践については、人口減少地域における小規模小・中学校の課題への対応、および小中交流による成果と課題をそれ

ぞれ検討した。前者については、宮崎県美郷町と五ヶ瀬町を取り上げ、地域で唯一の学校として全教職員ですべての子どもに責任を持つ体制づくりや、一人ひとりの個性や課題を把握しながらの情報の引き継ぎ、幼小中合同の縦割り組織である「ファミリー班」の編制による人間関係づくりといった工夫を行っている。また後者については、施設一体型小中一貫校 5-7 年ブロックで行われている FSS(Five-Six-Seven)活動を取り上げ、FSS 活動を通して、5 年生は中学校的な生活に慣れ 5 - 7 年ブロックの一員としての意識が芽生える、6 年生は 7 年生を見本としながら上級生としての意識を身につける、7 年生は中 1 ギャップを感じることなくリーダーとして活躍するといった成果がある。その一方で、5・6 年生がしっかりして中 1 が幼くなるという一般的な姿が、5・6 年生が幼くなり 7 年生はしっかりするといった異なる成長のプロセスをたどるのにすぎないのではないかという課題も見出された。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 19 件)

石井久雄(2019)。「義務教育学校における小中交流に関する一考察～5年、6年、7年生の交流活動を中心に～」。『人間の発達と教育』, 16, 明治学院大学教職課程論叢, pp.73-90.

(査読無)

藤田晃之(2019)。「子供の発達を支えるキャリア教育の展開」。『初等教育資料』, 977, pp.14-17.

(査読無)

石井久雄(2018)。「学びの記憶～『総合的な学習の時間』をめぐる～」。『人間の発達と教育』, 15, 明治学院大学教職課程論叢, pp.91-105. (査読無)

樋口直宏(2018)。「小中一貫教育におけるカリキュラム・マネジメント」。『教育時評』, 第 44 号, pp.24-33. (査読無)

藤田晃之(2018)。「中学校におけるキャリア教育への期待と実践ポイント」。『指導と評価』, 768, pp.52-53. (査読無)

藤田晃之(2018)。「小学校におけるキャリア教育への期待と実践ポイント」。『指導と評価』, 767, pp.56-57. (査読無)

藤田晃之(2018)。「キャリア教育の“要”としての特別活動と『キャリア・パスポート』」。『指導と評価』, 765, pp.56-57. (査読無)

石井久雄(2017)。「キャリア教育に関する一考察」。『人間の発達と教育』, 14, 明治学院大学教職課程論叢, pp.67-71. (査読無)

石井久雄(2017)。「キャリア教育及び進路指導の実態と課題～高等学校を事例として～」。『学校世界の探求』報告書 2017, 子どもの遊びと生活と文化に関する研究会(編), pp.23-30.

(査読無)

石井久雄(2017)。「子どもが憧れるヒーローはどう変わったか～兜甲児からアムロ・レイ、碇シンジへ～」。『児童心理』, 第 71 巻 1 号, pp.72-76. (査読無)

樋口直宏(2017)。「小中一貫教育の推進方策とカリキュラム開発」。『日本義務教育学会紀要』, 創刊号, pp.33-40. (査読有)

樋口直宏(2017)。「総合的な学習の時間における『考える時間』の授業構想 - 思考スキルの一般的アプローチ -」。『教育方法学研究』(教育方法研究会), 第 18 集, pp.53-74. (査読無)

藤田晃之(2018)。「キャリア教育からのアプローチ:教育活動全体を通し『自分ごと』としてとらえるキャリア教育を」。『社会科教育』, 54(9), pp.12-15. (査読無)

藤田晃之(2017)。「キャリア教育の課題と展望」。『月刊高校教育』, 50(8), pp.28-31. (査読無)

藤田晃之(2017).「家庭や学校で『働くことの意味』をどう教えるか」.『児童心理』, 第71巻8号, pp.693-698.(査読無)

遠藤宏美(2017).「人口減少に『連携』で立ち向かう学校～宮崎県の現状から～」.『研究報告 人口減少問題と学校教育』, pp.47-61.(査読無)

石井久雄(2016).「今の子どもたちの憧れの職業とは? ～国際比較から～」.『児童心理』, 第70巻9号, pp.61-65.(査読無)

石井久雄(2016).「子どもとスマホの関係を捉える視点に関する一考察」.『人間の発達と教育』, 12, 明治学院大学教職課程論叢, pp.75-93.(査読無)

藤田晃之(2016).「CSRとしてキャリア教育に企業が取り組む意義とは」.『人事実務』, 1167, pp.6-13.(査読無)

[学会発表](計 7 件)

樋口直宏, 石井久雄, 遠藤宏美(2018).「義務教育学校の諸相 - 質問紙調査を中心に -」. 第3回日本義務教育学会.

Fujita Teruyuki, Kyomen Tetsuo, Ishimine Chizuru, Shibamura Shunsuke(2018). Measuring Essential Career Competencies: Insights, Suggestions and Potential Pitfalls Learned Through an International Comparative Study. International Association for Educational and Vocational Guidance (IAEVG) 2018 Conference.

藤田晃之(2018).「キャリア教育政策研究から見た『深い学び』」(招待講演). 日本教育学会 2017 年度関東地区公開シンポジウム - 「深い学び」の教育学的研究 - .

遠藤宏美(2017).「人口減少先進地域での小規模小・中学校の理想と現実」. 第24回日本子ども社会学会.

樋口直宏(2016).「『育成すべき資質・能力』とアクティブ・ラーニング」(シンポジウム). 第14回筑波大学教育学会.

石井久雄(2015).「『悪玉としてのスマホ/被害者としての子ども』と『反映物としてのスマホ/当事者としての子ども』」(招待講演). 第22回日本子ども社会学会.

遠藤宏美(2015).「小中一貫校における児童・生徒理解に関する一考察」. 第22回日本子ども社会学会.

[図書](計 7 件)

樋口直宏(2018).「つくば市小中一貫教育における主体的・対話的で深い学びと『6つの帽子』」.『「主体的・対話的で深い学び」につながる授業実践集-「6つの帽子」で面白いほど対話がすすむ』(監修・分担執筆), 高陵社書店, pp.3, 6-10.

遠藤宏美(2018).「知識創造社会で学びを変革する日本の市民像」.『新訂 学習指導要領は国民形成の設計書 その能力観と人間像の歴史的変遷』, 水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子(共著), 東北大学出版会, pp.271-276.

遠藤宏美(2018).「義務教育を担う小中一貫校構築の現場から」.『人口減少時代の家族・学校・地域・社会 生涯にわたる学びと教えの新たな可能性を求めて』, 馬居政幸・角替弘規(共編著), NSK出版, pp.315-323.

樋口直宏(2016).「学校種間の連携」.『学校心理学ハンドブック(第2版)』(分担執筆), 教育出版, pp.220-221.

石井久雄(2015).「情報社会に生きる子どもと生活指導」.『学校教育と生活指導の創造』(共編著), 学文社, pp.136-154.

樋口直宏(2015).「つくば市小中一貫教育の成果と展望」.『つくば市小中一貫教育成功の秘訣 アクティブ・ラーニング「つくばスタイル科」による21世紀型スキルの学び:どこよりも早く明日の教育に出会える学園』(分担執筆),東京書籍, pp.3-5.

藤田晃之(2015).「『いまとみらい科』の魅力」.『ゼロからはじめる小中一貫キャリア教育』(監修・分担執筆),実業之日本社, pp.6-9.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

樋口直宏(編著)(2019).『小中一貫教育における発達特性および汎用的能力をふまえたキャリア教育プログラム開発』(研究報告書).

小中一貫教育に関する調査研究協力者会議(作成委員 藤田晃之)(2016).『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』. pp.1-112.

天笠茂, 樋口直宏, 小泉治, 長澤悟(2015).「小中一貫教育を生かす学校建築をどうつくるか」(座談会).『近代建築』, 69, pp.52-61.

6. 研究組織

(1)研究分担者

・研究分担者氏名:石井久雄

ローマ字氏名:Ishii Hisao

所属研究機関名:明治学院大学

部局名:文学部

職名:教授

研究者番号(8桁):30330947

・研究分担者氏名:遠藤宏美

ローマ字氏名:Endo Hiromi

所属研究機関名:宮崎大学

部局名:教育学部

職名:准教授

研究者番号(8桁):30613848

・研究分担者氏名:藤田晃之

ローマ字氏名:Fujita Teruyuki

所属研究機関名:筑波大学

部局名:人間系

職名:教授

研究者番号(8桁):50261219

(2)研究協力者 なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。